

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	愛媛県松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個々に応じて、起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。また、地域・施設内の行事に参加することによって地域にとけこんで来ている。今後、地域の方にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。また、地域の独居の方にも楽しい時間を過ごして頂ける場も提供して行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内の畑で野菜を育てたり、犬を飼うなどして利用者の楽しみを支援している。また、リハビリ専用室を備えて健康維持に努めている。地域密着型サービスの重要性を認識したうえで自治会に加入しており、地域の行事や清掃活動に利用者と職員と一緒に参加し、地域との連携を積極的に図っている。家族会を結成しており、要望を聞き取ったり、ホームへの協力と信頼を得られるよう努めている。職員は、利用者の力が発揮できるよう食事の準備や後片付けなどの機会を設けて支援している。代表者は職員の要望を聞いて運営に反映させたり、職員のスキルアップを支援することでサービスの質の向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 西岡 明美

評価完了日 平成 21 年 10月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に暮らしていけること、その人らしい生活を送れることを理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 従来の理念を見直し、職員全員で話し合っ、地域密着型サービスの意義を踏まえた新たな理念を作成している。管理者と職員は、毎月のミーティングで日々のケアを振り返る中で理念に立ち返り、理念の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事（夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等）に参加し、また施設行事にも地域に声をかけ参加してもらい地域と事業所（利用者）のつながりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話でも地域との交流は日常的にできている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得て、祭りや運動会などの地域行事に利用者と職員と一緒に参加したり、近隣の公園の清掃を住民と一緒に担当している。また、ホーム主催の地域交流会を年2回開催し、小学生や地域住民に参加してもらうなど、地域の一員としての連携を着実に進め、地域住民と親密な交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的な運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法（AEDの使い方）を伝達、報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議に町内会長や公民館長、民生 委員、介護保険課の方、また家族の方にも参加してい ただいており、利用者やサービスの実際、評価への取 り組みとその結果についても報告を行い、地域の方の 意見を取り入れサービス向上に活かしている。	議題にホームが課題としている事項を取り上げ、メン バーから意見や情報を得て家族や地域へ発信するな ど、会議の更なる充実を期待したい。
			(外部評価) 市担当者、地域代表者や民生委員、利用者及び家族等 をメンバーとして、消防署や駐在所にも参加してもら い、2か月毎に開催している。ホームの取り組みや評 価の公表を議題として、参加者から要望やアイディア を引き出すよう工夫し、地域との交流を積極的に進め るなどサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外にも、家族会等に介護保険課の方に 参加していただき、新しい情報を提供していただきな がら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者にホームの家族会に参加してもらい、介護保 険の説明をしてもらったり、ホームを見学してもら うなどの機会をつくり、協力関係を築く工夫をしてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について職員皆が充分理解しており、身体拘 束しないケアに取り組んでいる。危険を伴う方につい ては事前にご家族の方への説明を行い、理解をいただ いた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、 防犯対策として夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) 身体及び精神的拘束の弊害をよく理解し、日々のケア の中で職員はお互いに注意し合い、拘束をしないケア に取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、利用者 は日中自由に出入りしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。一部の利用者に限り、家族が面会に来られた際の利用者への虐待の防止にも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆、理解しており必要であれば、活用できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会がない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決できるよう努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。 (外部評価) 意見箱を設置し、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。また、家族の訪問時には積極的に声をかけ、意見や要望を聞き取るようにしている。出された意見等は職員全員で共有し、運営やサービスの質の向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間でのミーティングを行い、職員個々の意見や提案を聞き入れ、皆で検討し、改善に努めている。 (外部評価) 代表者は、毎月ミーティングで管理者との意見交換を行い、また年2～3回はユニット全体会議に出席して、職員から現場の意見や要望を聞き、運営に反映させている。職員の異動に関しても意向を聞き取っている。また、職員の希望によりスキルアップを積極的に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり、地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員それぞれが資格取得に努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者の交流会や運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワークづくり相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安な事、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応が出来る体制をとるようにしている。本人と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違いがある際は別のサービスがあることを知らせ、相談にのっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支えたりして、喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告して理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望や意見を聞き入れ、外出先を選んだり、また個人的にも出来る限り望みが叶えられるよう支援している。歌や物事でもなじみの支援に努めている。里帰りも今後検討している。 (外部評価) ホーム周辺出身の利用者が少ないため、本人の希望する美容院やスーパーを利用したり、散歩時に挨拶を交わして地域との馴染みの関係を築けるよう支援している。利用者の希望に応じて墓参り等の支援にも取り組むことにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何らかのトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いができるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったり、医療機関に行かれた際においても面会に行くなどしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送っていただけるよう取り組んでいる。 (外部評価) 職員から積極的に声をかけたり、日々のケアを通して表情や何気ない仕草を見逃さないように気をつけて、本人の希望や意向の把握に努めている。得られた情報をパソコンに入力して出勤時に目を通し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されたからの生活に反映していけるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたい時はゆっくりしていただき、食事、入浴等出来る事はしていただいている。また、その日の変化に気付き対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活ができるよう計画作成している。状態の変化に伴わない計画の立て直しをしている。 (外部評価) センター方式を取り入れ、アセスメントを基に計画作成担当者を中心にケアマネジャーや職員で話し合い、家族の要望も取り入れて介護計画を立てている。モニタリングとケアカンファレンスを行い、変化時及び3か月毎に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状態、要望に応じ柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、ボランティアなどの取り組みから体験しよろこびや楽しみを感じることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、定期健診や必要に応 じた受診を行っている。本人及び家族の意見や希望を 尊重し入所前からのかかりつけ医による継続的な医療 を受けられるよう支援している。 (外部評価) 本人や家族の希望を大切に、皮膚科、泌尿器科、心療 内科等の受診を支援している。また、本人の健康状態 により必要に応じて職員同行での受診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された際は、小まめに面会に行くなど安 心していただけるよう対応し、家族と相談しながらま た早期退院に向けて病院関係者（医師、看護師）との 情報交換、相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期について、また重度化した場合につ いての話し合いを行っており、職員全員で支援に取り 組んでいる。 (外部評価) 看取り指針を作成しており、入居時から本人及び家族 に説明し、状況変化に応じて意思を確認しながら方針 を共有して支援に取り組んでいる。過去の看取りの経 験から、家族の支援の重要性・不可欠性を実感してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し、実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練などを行っており職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方にも災害時の協力をお願いしている。 (外部評価) 緊急連絡網、避難経路図、避難マニュアル及び訓練記録を作成し、消防署の協力を得て、年2回の訓練を実施している。飲料水や食料などを備蓄している。夜間を想定しての訓練も行っているが、回数は少なく地域の協力が十分得られているとまでは言えない。	運営推進会議を通して地域への協力を継続的にお願いするとともに、地域の避難場所としてホームを提供することも検討し、双方向の協力関係を築いていくことを期待したい。また、自主的避難訓練を計画的に繰り返し実施することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。居室には暖簾にてプライバシー保護に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、職員はお互いに注意し合って誇りやプライバシーを損ねない対応に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意見が聞けない方は、家族から以前の好みを聞き、なじみの装いができるよう心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞きメニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんでいただけるよう配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。 (外部評価) 利用者の好みや希望をメニューに取り入れ、担当職員が立てた献立を、法人の栄養士にチェックしてもらっている。調理の下ごしらえや後片付けなど、できる人ができることを積極的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じ刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、週に1回の消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>1人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立にむけた支援を行っている。尿意便意の訴えの出来ない利用者については、時間ごとの交換を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄状況を記録することで利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、便秘予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わすよう配慮している。また、気持ちのいい入浴を楽しめるよう心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回の午前中を基本としているが、要望があれば可能な限り柔軟に対応するよう心がけている。入浴が苦手な利用者には、声をかける職員を変えて誘導したり、足湯から入浴に移行するなど、工夫して入浴を楽しめるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>個人の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせ声かけ、誘導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の処方薬について、目的、副作用等は職員皆が理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来る事出来ない事を把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また、外出場所はそれぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会にも参加したりしている。	
			(外部評価) 日常的に、近所に散歩に行ったり、公園でおやつを食べたり、ドライブなどに出かけている。毎月1回、3ユニット合同で計画を立て、食事や喫茶、季節の花見に出かけ、家族の協力を得ながら、全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しい物があれば購入できるよう支援している。現在、お金は施設管理にしており所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望の応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、めだかを飼ったりして生活感、季節感が感じられ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は広々として段差がなく、車いすでも移動しやすい。窓が多く、自然の光や風が入り、利用者はソファでゆったりとくつろいでいる。利用者の体調に配慮して、室内を適温に保っている。玄関には職員の写真を貼り、居間や廊下には利用者の暮らしぶりの写真を掲示し、花や作品で季節感を取り入れている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごしていただいている。利用者同士で、仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人のなじみの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗無く生活していただけるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 写真、花、テレビ、ベッドなどそれぞれの好みの品や使い慣れた物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。入り口には好みの暖簾をかけている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るよう環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	愛媛県松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 21年 10月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 11月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個々に応じて、起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。また、地域・施設内の行事に参加することによって地域にとけこんで来ている。今後、地域の方にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。また、地域の独居の方にも楽しい時間を過ごして頂ける場も提供して行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内の畑で野菜を育てたり、犬を飼うなどして利用者の楽しみを支援している。また、リハビリ専用室を備えて健康維持に努めている。地域密着型サービスの重要性を認識したうえで自治会に加入しており、地域の行事や清掃活動に利用者と職員が一緒に参加し、地域との連携を積極的に図っている。家族会を結成しており、要望を聞き取ったり、ホームへの協力と信頼を得られるよう努めている。職員は、利用者の力が発揮できるよう食事の準備や後片付けなどの機会を設けて支援している。代表者は職員の要望を聞いて運営に反映させたり、職員のスキルアップを支援することでサービスの質の向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 山口 久美

評価完了日 平成 21 年 10月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に暮らしていけること、その人らしい生活を送れることを理念にあげ、地域への行司さんかも行い職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 従来の理念を見直し、職員全員で話し合っ、地域密着型サービスの意義を踏まえた新たな理念を作成している。管理者と職員は、毎月のミーティングで日々のケアを振り返る中で理念に立ち返り、理念の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事（夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等）に参加し、また施設行事にも地域に声をかけ参加してもらい地域と事業所（利用者）のつながりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話でも地域との交流は日常的にできている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得て、祭りや運動会などの地域行事に利用者と職員と一緒に参加したり、近隣の公園の清掃を住民と一緒に担当している。また、ホーム主催の地域交流会を年2回開催し、小学生や地域住民に参加してもらうなど、地域の一員としての連携を着実に進め、地域住民と親密な交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的な運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法（AEDの使い方）を伝達、報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議に町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課の方、また家族の方にも参加していただき、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方の意見を取り入れサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 市担当者、地域代表者や民生委員、利用者及び家族等をメンバーとして、消防署や駐在所にも参加してもらい、2か月毎に開催している。ホームの取り組みや評価の公表を議題として、参加者から要望やアイデアを引き出すよう工夫し、地域との交流を積極的に進めるなどサービスの向上に活かしている。	議題にホームが課題としている事項を取り上げ、メンバーから意見や情報を得て家族や地域へ発信するなど、会議の更なる充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外にも、家族会等に介護保険課の方に参加していただき、新しい情報を提供していただきながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者にホームの家族会に参加してもらい、介護保険の説明をしてもらったり、ホームを見学をもらうなどの機会をつくり、協力関係を築く工夫をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について職員皆が充分理解しており、身体拘束しないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族の方への説明を行い、理解をいただいた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) 身体及び精神的拘束の弊害をよく理解し、日々のケアの中で職員はお互いに注意し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、利用者は日中自由に入出入りしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。一部の利用者に限り、家族が面会に来られた際の利用者への虐待の防止にも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆、理解しており必要であれば、活用できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会がない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決できるよう努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示し、施設入り口には意見箱を設置している。 (外部評価) 意見箱を設置し、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。また、家族の訪問時には積極的に声をかけ、意見や要望を聞き取るようにしている。出された意見等は職員全員で共有し、運営やサービスの質の向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間でのミーティングを行い、職員個々の意見や提案を聞き入れ、皆で検討し、改善に努めている。 (外部評価) 代表者は、毎月ミーティングで管理者との意見交換を行い、また年2～3回はユニット全体会議に出席して、職員から現場の意見や要望を聞き、運営に反映させている。職員の異動に関しても意向を聞き取っている。また、職員の希望によりスキルアップを積極的に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり、地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員それぞれが資格取得に努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者の交流会や運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワークづくり相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安な事、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応が出来る体制をとるようにしている。本人と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違いがある際は別のサービスがあることを知らせ、相談にのっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支えたりして、喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告して理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望や意見を聞き入れ、外出先を選んだり、また個人的にも出来る限り望みが叶えられるよう支援している。歌や物事でもなじみの支援に努めている。里帰りも今後検討している。 (外部評価) ホーム周辺出身の利用者が少ないため、本人の希望する美容院やスーパーを利用したり、散歩時に挨拶を交わして地域との馴染みの関係を築けるよう支援している。利用者の希望に応じて墓参り等の支援にも取り組むことにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何らかのトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったり、医療機関に行かれた際においても面会に行くなどしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送っていただけるよう取り組んでいる。 (外部評価) 職員から積極的に声をかけたり、日々のケアを通して表情や何気ない仕草を見逃さないように気をつけて、本人の希望や意向の把握に努めている。得られた情報をパソコンに入力して出勤時に目を通し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されたからの生活に反映していけるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたい時はゆっくりしていただき、食事、入浴等出来る事はしていただいている。また、その日の変化に気付き対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活ができるよう計画作成している。状態の変化に伴わない計画の立て直しをしている。</p> <p>(外部評価) センター方式を取り入れ、アセスメントを基に計画作成担当者を中心にケアマネジャーや職員で話し合い、家族の要望も取り入れて介護計画を立てている。モニタリングとケアカンファレンスを行い、変化時及び3か月毎に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状態、要望に応じ柔軟に支援している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、ボランティアなどの取り組みから体験しよるこびや楽しみを感じることが出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、定期健診や必要に応 じた受診を行っている。本人及び家族の意見や希望を 尊重し入所前からのかかりつけ医による継続的な医療 を受けられるよう支援している。 (外部評価) 本人や家族の希望を大切に、皮膚科、泌尿器科、心療 内科等の受診を支援している。また、本人の健康状態 により必要に応じて職員同行での受診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された際は、小まめに面会に行くなど安 心していただけるよう対応し、家族と相談しながらま た早期退院に向けて病院関係者（医師、看護師）との 情報交換、相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期について、また重度化した場合につ いての話し合いを行っており、職員全員で支援に取り 組んでいる。 (外部評価) 看取り指針を作成しており、入居時から本人及び家族 に説明し、状況変化に応じて意思を確認しながら方針 を共有して支援に取り組んでいる。過去の看取りの経 験から、家族の支援の重要性・不可欠性を実感してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し、実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練などを行っており職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方にも災害時の協力をお願いしている。 (外部評価) 緊急連絡網、避難経路図、避難マニュアル及び訓練記録を作成し、消防署の協力を得て、年2回の訓練を実施している。飲料水や食料などを備蓄している。夜間を想定しての訓練も行っているが、回数は少なく地域の協力が十分得られているとまでは言えない。	運営推進会議を通して地域への協力を継続的にお願いするとともに、地域の避難場所としてホームを提供することも検討し、双方向の協力関係を築いていくことを期待したい。また、自主的避難訓練を計画的に繰り返し実施することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、出来ない所はさりげなく介助し、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。居室には暖簾にてプライバシー保護に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、職員はお互いに注意し合って誇りやプライバシーを損ねない対応に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意見が聞けない方は、家族から以前の好みを聞き、なじみの装いができるよう心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞きメニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんでいただけるよう配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。 (外部評価) 利用者の好みや希望をメニューに取り入れ、担当職員が立てた献立を、法人の栄養士にチェックしてもらっている。調理の下ごしらえや後片付けなど、できる人ができることを積極的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じ刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、週に1回の消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立にむけた支援を行っている。尿意便意の訴えの出来ない利用者については、時間ごとの交換を行っている。	
			(外部評価) 排泄状況を記録することで利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わすよう配慮している。また、気持ちの良い入浴を楽しめるよう心がけている。	
			(外部評価) 週3回の午前中を基本としているが、要望があれば可能な限り柔軟に対応するよう心がけている。入浴が苦手な利用者には、声をかける職員を変えて誘導したり、足湯から入浴に移行するなど、工夫して入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせ声かけ、誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の処方薬について、目的、副作用等は職員皆が理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来る事出来ない事を把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また、外出場所はそれぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会にも参加したりしている。	
			(外部評価) 日常的に、近所に散歩に行ったり、公園でおやつを食べたり、ドライブなどに出かけている。毎月1回、3ユニット合同で計画を立て、食事や喫茶、季節の花見に出かけ、家族の協力を得ながら、全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しい物があれば購入できるよう支援している。現在、お金は施設管理にしており所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望の応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、めだかを飼ったりして生活感、季節感が感じられ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は広々として段差がなく、車いすでも移動しやすい。窓が多く、自然の光や風が入り、利用者はソファでゆったりとくつろいでいる。利用者の体調に配慮して、室内を適温に保っている。玄関には職員の写真を貼り、居間や廊下には利用者の暮らしぶりの写真を掲示し、花や作品で季節感を取り入れている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごしていただいている。利用者同士で、仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人のなじみの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗無く生活していただけるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 写真、花、テレビ、ベッドなどそれぞれの好みの品や使い慣れた物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。入り口には好みの暖簾をかけている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るよう環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	愛媛県松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 21年 10月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 11月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個々に応じて、起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日行っている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。また、地域・施設内の行事に参加することによって地域にとけこんで来ている。
今後、地域の方にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。また、地域の独居の方にも楽しい時間を過ごして頂ける場も提供して行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内の畑で野菜を育てたり、犬を飼うなどして利用者の楽しみを支援している。また、リハビリ専用室を備えて健康維持に努めている。地域密着型サービスの重要性を認識したうえで自治会に加入しており、地域の行事や清掃活動に利用者職員が一緒に参加し、地域との連携を積極的に図っている。家族会を結成しており、要望を聞き取ったり、ホームへの協力と信頼を得られるよう努めている。職員は、利用者の力が発揮できるよう食事の準備や後片付けなどの機会を設けて支援している。代表者は職員の要望を聞いて運営に反映させたり、職員のスキルアップを支援することでサービスの質の向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Cユニット

記入者(管理者)

氏名 嶋之内 孝江

評価完了日 平成 21 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に暮らしていける事、その人らしい生活を送れる事を理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 従来の理念を見直し、職員全員で話し合っ、地域密着型サービスの意義を踏まえた新たな理念を作成している。管理者と職員は、毎月のミーティングで日々のケアを振り返る中で理念に立ち返り、理念の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事（夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等）に参加し、また施設行事にも地域に声をかけ参加してもらい地域と事業所（利用者）のつながりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話でも地域との交流は日常的にできている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得て、祭りや運動会などの地域行事に利用者と職員と一緒に参加したり、近隣の公園の清掃を住民と一緒に担当している。また、ホーム主催の地域交流会を年2回開催し、小学生や地域住民に参加してもらうなど、地域の一員としての連携を着実に進め、地域住民と親密な交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的な運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法（AEDの使い方）を伝達、報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議に町内会長や公民館長、民生 委員、介護保険課の方、また家族の方にも参加してい ただいており、利用者やサービスの実際、評価への取 組みとその結果についても報告を行い、地域の方の 意見を取り入れサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 市担当者、地域代表者や民生委員、利用者及び家族等 をメンバーとして、消防署や駐在所にも参加してもら い、2か月毎に開催している。ホームの取組みや評 価の公表を議題として、参加者から要望やアイデア を引き出すよう工夫し、地域との交流を積極的に進め るなどサービスの向上に活かしている。	議題にホームが課題としている事項を取り上げ、メン バーから意見や情報を得て家族や地域へ発信するな ど、会議の更なる充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外にも、家族会等に介護保険課の方に 参加していただき、新しい情報を提供していただきな がら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者にホームの家族会に参加してもらい、介護保 険の説明をしてもらったり、ホームを見学をしてもら うなどの機会をつくり、協力関係を築く工夫をしてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について職員皆が充分理解しており、身体拘 束しないケアに取り組んでいる。危険を伴う方につい ては事前にご家族の方への説明を行い、理解をいただ いた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、 防犯対策として夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) 身体及び精神的拘束の弊害をよく理解し、日々のケア の中で職員はお互いに注意し合い、拘束をしないケア に取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、利用者 は日中自由に入出入りしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。一部の利用者に限り、家族が面会に来られた際の利用者への虐待の防止にも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆、理解しており必要であれば、活用できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会がない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決できるよう努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。 (外部評価) 意見箱を設置し、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。また、家族の訪問時には積極的に声をかけ、意見や要望を聞き取るようにしている。出された意見等は職員全員で共有し、運営やサービスの質の向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間でのミーティングを行い、職員個々の意見や提案を聞き入れ、皆で検討し、改善に努めている。 (外部評価) 代表者は、毎月ミーティングで管理者との意見交換を行い、また年2～3回はユニット全体会議に出席して、職員から現場の意見や要望を聞き、運営に反映させている。職員の異動に関しても意向を聞き取っている。また、職員の希望によりスキルアップを積極的に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり、地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員それぞれが資格取得に努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者の交流会や運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワークづくり相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安な事、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応が出来る体制をとるようにしている。本人と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違いがある際は別のサービスがあることを知らせ、相談にのっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支えたりして、喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告して理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望や意見を聞き入れ、外出先を選んだり、また個人的にも出来る限り望みが叶えられるよう支援している。歌や物事でもなじみの支援に努めている。里帰りも今後検討している。 (外部評価) ホーム周辺出身の利用者が少ないため、本人の希望する美容院やスーパーを利用したり、散歩時に挨拶を交わして地域との馴染みの関係を築けるよう支援している。利用者の希望に応じて墓参り等の支援にも取り組むことにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何らかのトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いができるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったり、医療機関に行かれた際においても面会に行くなどしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送っていただけるよう取り組んでいる。 (外部評価) 職員から積極的に声をかけたり、日々のケアを通して表情や何気ない仕草を見逃さないように気をつけて、本人の希望や意向の把握に努めている。得られた情報をパソコンに入力して出勤時に目を通し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されたからの生活に反映していけるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたい時はゆっくりしていただき、食事、入浴等出来る事はしていただいている。また、その日の変化に気付き対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活ができるよう計画作成している。状態の変化に伴わない計画の立て直しをしている。	
			(外部評価) センター方式を取り入れ、アセスメントを基に計画作成担当者を中心にケアマネジャーや職員で話し合い、家族の要望も取り入れて介護計画を立てている。モニタリングとケアカンファレンスを行い、変化時及び3か月毎に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状況、要望に応じ柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、ボランティアなどの取り組みから体験しよろこびや楽しみを感じることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、定期健診や必要に応 じた受診を行っている。本人及び家族の意見や希望を 尊重し入所前からのかかりつけ医による継続的な医療 を受けられるよう支援している。 (外部評価) 本人や家族の希望を大切に、皮膚科、泌尿器科、心療 内科等の受診を支援している。また、本人の健康状態 により必要に応じて職員同行での受診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された際は、小まめに面会に行くなど安 心していただけるよう対応し、家族と相談しながらま た早期退院に向けて病院関係者（医師、看護師）との 情報交換、相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期について、また重度化した場合につ いての話し合いを行っており、職員全員で支援に取り 組んでいる。 (外部評価) 看取り指針を作成しており、入居時から本人及び家族 に説明し、状況変化に応じて意思を確認しながら方針 を共有して支援に取り組んでいる。過去の看取りの経 験から、家族の支援の重要性・不可欠性を実感してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し、実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練などを行っており職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方にも災害時の協力をお願いしている。 (外部評価) 緊急連絡網、避難経路図、避難マニュアル及び訓練記録を作成し、消防署の協力を得て、年2回の訓練を実施している。飲料水や食料などを備蓄している。夜間を想定しての訓練も行っているが、回数は少なく地域の協力が十分得られているとまでは言えない。	運営推進会議を通して地域への協力を継続的にお願いするとともに、地域の避難場所としてホームを提供することも検討し、双方向の協力関係を築いていくことを期待したい。また、自主的避難訓練を計画的に繰り返し実施することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。居室や浴室入り口は暖簾にてプライバシー保護に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、職員はお互いに注意し合って誇りやプライバシーを損ねない対応に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自宅で使われていた化粧道具や、帽子やバック等 おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞きメニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんでいただけるよう配慮している。また、準備を職員と一緒にしたり、片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。 (外部評価) 利用者の好みや希望をメニューに取り入れ、担当職員が立てた献立を、法人の栄養士にチェックしてもらっている。調理の下ごしらえや後片付けなど、できる人ができることを積極的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じ刻み食や補助食品を提供したり、居室へお茶等を準備し、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、週に1回の消毒も行っている。また、口臭予防として浄化・防止液を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立にむけた支援を行っている。	
			(外部評価) 排泄状況を記録することで利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、腹部マッサージをするなど、スムーズな排泄ができるよう便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わすよう配慮している。また、気持ちの良い入浴を楽しめるよう心がけている。	
			(外部評価) 週3回の午前中を基本としているが、要望があれば可能な限り柔軟に対応するよう心がけている。入浴が苦手な利用者には、声をかける職員を変えて誘導したり、足湯から入浴に移行するなど、工夫して入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の処方薬について、目的、副作用等は職員皆が理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来る事出来ない事を把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日その日の状態、状況に応じ近所の公園への散歩や、好みのおやつのお買い物に行ったり、気分転換を行っている。また、外出場所はそれぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会にも参加したりしている。	
			(外部評価) 日常的に、近所に散歩に行ったり、公園でおやつを食べたり、ドライブなどに出かけている。毎月1回、3ユニット合同で計画を立て、食事や喫茶、季節の花見に出かけ、家族の協力を得ながら、全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しい物があれば購入できるよう支援している。現在、お金は施設管理にしてお持ちしている利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望の応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、リビングや家族さんが持ってこられためだかを飼ったりして生活感、季節感が感じられ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 共用空間は広々として段差がなく、車いすでも移動しやすい。窓が多く、自然の光や風が入り、利用者はソファでゆったりとくつろいでいる。利用者の体調に配慮して、室内を適温に保っている。玄関には職員の写真を貼り、居間や廊下には利用者の暮らしぶりの写真を掲示し、花や作品で季節感を取り入れている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごしていただいている。利用者同士で、仲の良い方は居室で家族さんの写真を一緒に見たり、近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人が自宅で使っておられたミシンや裁縫道具など、なじみの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗無く生活していただけるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 写真、花、テレビ、ベッドなどそれぞれの好みの品や使い慣れた物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。入り口には好みの暖簾をかけている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るよう環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	